2年 道徳 「はたらく」っていいね

実践タイトル 学ぶ喜びを実感する児童の育成

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

- 資料の場面絵を提示し目線を上げて集中させる。
- 児童のワークシートや生活表を大きく映すことで、個々の考えを共有する。
- 資料の内容を把握させる。
- 動画で印象づけ、日常場面からの価値を深める。

参考にしてほしいポイント
- 話し物資料を、紙で渡すのではなく、プレゼンテーションソフトウェアを用いて効果的に提示することで、クラス全員が資料の内容をしっかり把握することができる。

本時の展開（主な学習活動）

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習の流れ（分）</th>
<th>主な学習活動</th>
<th>ICT機器・教材、コンテンツ等</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>導入 0 5</td>
<td>家庭で行っている仕事について、家族へインタビューした動画を見て、働くことに対する問題意識を持つ。</td>
<td>家庭へのインタビュー動画</td>
</tr>
<tr>
<td>展開 5</td>
<td>小学校週間読み物資料集「もりのゆびびんやさん」をプレゼンテーションソフトウェアで教える。（写真1）</td>
<td>資料の場面絵と台詞等を入れたプレスペンテーションソフトウェア（写真1）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>場面絵をプレゼンテーションソフトウェアで見ながら「やさしいさんに「ありがとう」と言わせてくる中間はどんな気持ちだったのか？」を考える。</td>
<td>ワークシートを描く実験動画</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ワークシートに自分の考えを書く。</td>
<td>電子黒板のキャップチャ機能</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>電子黒板に取り込まれたワークシートの事例を例に示す。</td>
<td>電子黒板の拡大機能</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>木下さんの仕事にかける思いを理解する。</td>
<td>家庭へのインタビュー動画（写真2）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>お手伝いについて、家族がどう思っているか動画を見て考える。（写真2）</td>
<td>電子黒板のキャップチャ機能</td>
</tr>
<tr>
<td>まとめ 30</td>
<td>「冬休みの生活表」を見ながらみんなのお手伝いを交流する。</td>
<td>年末にかわれる家族の仕事についての考察を考える。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>年末にかわれる家族の仕事をプレゼンテーションソフトウェアで見ることで、働くことの意義についての理解を深める。</td>
<td>電子黒板のキャップチャ機能</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>自分たちの手伝いを振り返って話し合う。</td>
<td>年末にかわれる家族の仕事に関するプレゼンテーションソフトウェア</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家族が自分たちの働きぶりをどう見ているのかを知り、働くことについての課題を持ち、</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>家族が自分たちの働きぶりをどう見ているのかを知り、働くことについての課題を持つ。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

ICT活用への児童生徒の反応等
- 家庭で行っている仕事についてのインタビュー動画で見ることで、働くことへの問題意識を生むことができた。
- 電子黒板を用いて話し合いを生成することによって、児童は資料をイメージを膨らませながら視聴が可能で、資料の世界に浸ることができた。
- 児童のワークシートを電子黒板でキャップチャして大きく映しながら発表を行うことによって、個々の意見が全体に伝わりやすくなった。

活用効果

<table>
<thead>
<tr>
<th>評価の観点</th>
<th>具体的変容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>- 関心・意欲・態度</td>
<td>- プレゼンテーションソフトウェアによる場面絵や台詞の提示によって、資料に興対応を持ち、自分ごととして考えやすくなった。</td>
</tr>
<tr>
<td>- 道徳的価値の内面化</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

実践の手応え
- プレゼンテーションソフトウェアや動画、実物投影機を電子黒板に映し、構造的に児童の考えを視覚して互いに連動させながら指導を行うことによって、児童は学習している内容をより実感を持って考えやすくなった。